

高松鶴吉・繁成 剛 著（北九州市立総合療育センター）

障害児のためのテクノエイド

水落和也（横浜市立港湾病院リハ科）

著者らはこれまでにいくつものユニークな座位保持椅子を考案・製作し、学会発表に留まらず商品化にまで発展させてきている。最近リハ医学会においても Seating System がトピックスの一つになっているが、この領域で著者らが果たしてきた役割は極めて大きい。

本書は著者らがこれまでに開発した障害児のための座位保持椅子をはじめとする様々な道具の集大成であり、カタログのようでありながら学術書に近い内容を含んでいる。序章では北九州市立総合療育センター誕生までの歩みと、そこにリハビリテーション工房を持

ち、スタッフとして工業デザイナー（繁成氏）を参加させるに至ったいきさが述べられていて興味深い。ここには障害児療育に対する著者らの哲学と情熱が語られ、障害児に対する深い愛情が満ちあふれている。

本文は I 章椅子および座位保持具、II 章移動具、III 章訓練具および遊具、IV 章自助具および環境改善、から成っており全部で 89 の製品が紹介されている。製品の紹介は簡単な説明（目的・対象・機能・使用結果）とイラスト、写真が 1 ページにまとめられており、大変見やすく、写真に描かれた子供たちの生き生きとして楽しそうな表

情が印象的である。製品はいずれも機能的でかつ美しく木製が主体のため木の暖かみが伝わってくる。

リハビリテーションのスタッフとして工業デザイナーが加わることににより障害者のための道具に機能と同時に美しさがもたらされることは本書を読めば明らかな事である。これをきっかけとしてリハビリテーションの現場にデザイナーが活躍できる場が増えていくことを期待したい。

医学的立場からすると椅子の目的と対象が今ひとつ明確でないのが物足りない点であり、椅子の分類もまだ改善の余地があるように思える。また、効果については今後の研究の成果を待つところが多いと思われるが、障害児のリハビリテーションに関するすべての人にとって貴重な資料となる一冊である。

（B5，頁 148，¥4,000，1988，ぶどう社刊）

—お知らせ—

日本精薄教育研究会・第 30 回春季講座

期 日：1988 年 3 月 28 日（火）～30 日（木）

場 所：ホテル「川^{かわ}良^{りょう}」TEL 0557-37-8181

〒414 静岡県伊東市竹ノ内 1-1-3

主 題：「精神薄弱児者の自立とその課題」

講 師・助言者：

大南 英明（文部省初等中等教育局）

川田 昇（こころみ学園）

藤島 岳（東洋大学）

本橋駒三郎（千川作業所）

井村 逸郎（東京学芸大学附属養護学校）

大見川正治（文京女子短期大学）

江草 安彦（日本精神薄弱者愛護協会・旭川荘理事長）

内容、費用、定員等詳細は下記にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先：〒112 東京都文京区白山 5-28-20

東洋大学文学部教育学科気付

日本精薄教育研究会 ☎ 03-945-7389

または ☎ 0488-61-0465 藤島岳